

ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド 2018に参加しました
(公社)神奈川県理学療法士会災害対策委員会 災害対策委員会
西澤 茂子

平成30年7月20日(金)～21(土)の2日間にわたって「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド(通称:ヨッテク)」が、社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団主催のもとパシフィコ横浜展示ホールDにて開催されました。

今年で17回目となる「ヨコハマヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」の2018年の展示テーマは「暮らしを彩るプラスワン」。「やりたい」ができるようになったり、新しく何かにチャレンジしたりすることで毎日の暮らしが、イキイキした彩りあるものに。と銘打ち、暮らしの質を上げるための役に立つ活きた情報・アイデアが豊富にラインナップされました。

今回も災害対策委員会は公益事業推進部との協働でブース展示を行いました。公益事業推進部では、神奈川県理学療法士会の取り組みや理学療法(士)を多くの方に知ってもらうことを目的に、理学療法(士)の紹介映像を流したり、「腰痛の理学療法ハンドブック」などのリーフレットの配布を行いました。平時の理学療法(士)の活動や役割を知っていただくと共に、災害対策委員会では災害対策委員会の活動及び災害時の理学療法士の役割の普及啓発のために、委員会で作成した「災害時のリハビリテーション支援～理学療法士の役割～」のリーフレットも配布しました。また、災害時用トイレ「ラップポン」と、福祉版ラップポンの「ラップポン・プリオ」、ダンボールベッドを展示して、実際にラップポンを操作したり、ベッドに寝る体験もしていただきました。甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨により、多くの方が自宅や避難所で不自由な生活を強いられている状況が連日報道されており、来場者からは災害用トイレやダンボールベッドについて報道を通して知ったとの声が多く聞かれました。「マンション全体で災害用トイレの備えを検討しているので参考にしたい」、「ダンボールベッドは個人でも購入できるのか知りたい」、「どのような流れで避難所に災害用トイレやダンボールベッドが届くのか教えてほしい」といった具体的な質問が多く聞かれ、災害対策への関心が例年以上に高まっていることが質問からも感じられました。



災害対策委員会では「災害時に必要な備えや避難時に活用できる福祉用具」をコンセプトにした展示や、災害時における理学療法士の活動の普及啓発を今後も行っていきたいと思います。より多くの皆様の関心とご参加をお待ちしております。